

平成30年度 事業実施計画書（モデル的事業）

団体名：久々野まちづくり運営委員会

1. モデル的事業名	魅力情報発信事業
2. 事業名	魅力・お宝発信事業
3. 目的	<p>①情報発信事業</p> <p>久々野に魅力を感じるファンを作り、久々野に住みたいと思う人を増やすため、コミュニティービジネスの創出および移住者を久々野へ誘う仕組みを構築する。</p> <p>[地域課題]・久々野の魅力を外部に発信する仕組みが乏しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久々野地域の情報が得にくい ・まちづくりの事業に若い人が興味を持たない <p>②お宝マップ作成事業</p> <p>身近な「まちの魅力」探しを行うことでまちの長所を伸ばすことで、住民が住みたい、子どもたちが将来久々野に残りたいと思える魅力あるまちづくりを行う。</p> <p>[地域課題]・都会へ憧れ、若い人が地元に残らない（都会への流出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の魅力を感じていない ・お宝（地域資源）の埋没
4. 事業内容	<p>①情報発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久々野地域の若者（商工会青年部、農業青年生産者など）を主体とした実行委員会を設立。 ・久々野の歴史、文化、自然、特産などの情報発信の必要性、効果的方法などについてワークショップの開催。 ・多摩大学の指導者及び学生を招き、外部の人の目に久々野がどう映るのか、何が久々野の魅力でどう発信すればいいのかの実践講座を開催。 ・地域住民が発信者となる自発的情報発信の仕組みを構築。 <p>②お宝マップ作成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H10年に作成した「久々野のお宝マップ」の検証。 ・実行委員会を立ち上げ3年かけて「新久々野のお宝マップ」を作成。 ・専門家・講師を招き、事業の進め方や有効利用についての意見交換の開催。 ・小・中学生の目線によるお宝の掘り起こし。
5. 効果見込	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信を行う仕組みを構築することで、より広範囲で多くの情報を発信できるようになる。 ・地域全体が自発的情報発信することで、魅力が地域で共有される。 ・地域資源を発掘し、郷土愛の醸成につながることで、次世代の地域担い手が増える。 ・若い人が、まちづくりに興味を抱き、まちづくりへの参画のきっかけとなる。 ・地域資源が貴重なお宝と気づくことで特産品化へすすむ。 ・特産品などの情報が発信され、新たなコミュニティービジネスにつながる。 ・地域に興味を持ち、来訪・移住される人が増える。

平成 30 年度 事業スケジュール

①情報発信事業

月 日	項 目	事業内容 (対象・方法等)	摘 要
6 月	実行委員会設立	委員メンバー選定。 ワークショップの実施。 (ワークショップは年 5~6 回開催)	地域の若者主体 18 名 (商工会青年部、農業 青年生産者など)
7 月 1 日 ~3 日	視察・講習	教授・学生を久々野に招聘。 情報発信講座開催。 委員が学生と久々野地域を視察。 実地講座的に自発的情報発信を学ぶ。	大学 (教授・学生) 委員会委員
8 月~9 月	実施	委員が主導で自発的情報発信を実際 に行う。 効果検証。 ワークショップの実施。	久々野地域住民
10 月 14 日 ~16 日	反省と計画	8 月~9 月に発信した中での反省、課 題を大学と検証。 再度、教授・学生と久々野を視察し、 自発的情報発信を学ぶ。 意見交換会および計画策定。	
11 月~3 月	実施	委員が情報発信。 ワークショップの実施。 次年度の事業計画策定。	

②お宝マップ作成事業

月 日	項 目	事業内容 (対象・方法等)	摘 要
6 月	実行委員会設立	委員会メンバー選考 具体的実施方法の策定	12 名 (町内会、観光協 会など)
7 月	会議	打ち合わせ等	委員会
10 月	ワークショップ	講師を招き、マップ作成の方法、手法 の講座。 今後の事業の進め方の検討。	委員会
10 月~	宝のリストアップ作業	○久々野の風土 (地形、地質、気候、景観、自然、水、 動植物・・・) ○久々野の暮らし (名人、風習、祭り、食、施設、道・ 橋、コミュニティ・・・) ○久々野の営み (地場産業、特産品、伝統産業品、農 業、食材・・・) ○久々野の歴史 (神社仏閣、伝統行事、遺跡・・・)	委員会・町内会
2 月~3 月	事業計画	次年度の事業計画策定	

平成30年度 久々野まちづくり運営委員会 収支予算書 (モデル的事業)
魅力・お宝発信事業

【収 入】

単位：円

区 分	予算額	内 訳
市補助金	1,500,000	協働のまちづくり支援金(モデル的事業)
合 計	1,500,000	

【支 出】

単位：円

事業・科目	予算額	内 訳	
		支援金充当額	
情報発信事業	1,326,000	1,326,000	
人件費	108,000	108,000	委員報酬 (実行委員会)
旅費	840,000	840,000	多摩大学招聘 (教授・学生)
需用費	18,000	18,000	消耗品費 (事務用品等)
役務費	20,000	20,000	通信運搬費
使用料及び賃借料	340,000	340,000	バス借り上げ代 (地域巡回用)
お宝マップ作成事業	174,000	174,000	
人件費	54,000	54,000	委員報酬 (実行委員会)
報償費	80,000	80,000	講師謝礼
旅費	20,000	20,000	講師旅費
需用費	10,000	10,000	消耗品費 (事務用品等)
役務費	10,000	10,000	通信運搬費
合 計	1,500,000	1,500,000	